

ワールドカップから思うこと ～マネジメントするのは誰？～

現在、南アフリカで FIFA ワールドカップが開催されています。大方の予想を覆し、我が日本代表は初戦を勝利で飾りました。

さて、よく試合を観戦していると、強いチームは監督も選手も一体となっている感じがします。そういうチームは、チーム内のマネジメントがうまくいっているからなのでしょう。日本代表も本番直前の土壇場になって、チームが結束できたから結果につながったのでしょうか。

そう考えると、マネジメント、つまり「管理」することの大切さが重要だということがわかります。では、そのマネジメントとは一体誰がどのように行っているのでしょうか。



チーム内にはそれぞれ役割があります。監督はチームの指針（方向性・方策）である「戦略」に基づいてチームづくりの手段である「戦術」を考え、選手に浸透させます。選手はそれを理解し、「実行」します。

チームとして、「戦術」がなければ、選手は目標が定まらないためにまともならず、勝てるものも勝てなくなります。逆も然りで、戦術があっても、「実行」する選手がそれを理解しないで勝手に行動すれば、独善的・ひとりよがりになり、チームとして機能しません。

これまでの日本代表を見るとどうでしょうか。ボールをキープしていても、近くの仲間にパスを回すばかりで、見ていてイライラした覚えはないでしょうか。勝負を恐れて、誰かに頼ろうとしている選手では、どんなに優秀な監督を招いてもなかなか勝てません。世界の強豪国は監督も一流ですが、選手も一流です。

監督は戦術を考えて選手に伝えますが、あとは選手が状況に応じて、自分たちで判断し、行動しなければなりません。なぜならピッチの上には選手しかいないのですから、誰にも頼れないのです。

ブラジル代表の華麗なパス回し、イタリア代表の強固な守備、これらは選手個々の能力もありますが、それだけでなく一人ひとりがチームとしての戦略・戦術を理解し、判断し、行動しているからこそ可能になります。

今年度当初、三浦市役所の戦略である「行政革命戦略」の職員説明会を行いました。出席者から提出された感想をみると、理解してくれた人もいれば、そうでない人もいました。筆者も説明者として参加しましたが、うまく説明できないところもあり、そこは反省しなければと痛感しています。しかし、三浦市役所がチームとして機能するには、選手である職員がこれを正しく理解することが不可欠です。

その上で、実際に戦術を実行するのは職員ですから、誰かに管理（マネジメント）してもらえばかりでなく、自ら考えて行動できるように個人の信念や判断を磨くことも大事になります。まずは「戦術を理解する」、次に「自己を研鑽する」、そして「実行する」、ということが、いわゆる『セルフマネジメント』のサイクルなのではないでしょうか。

さて、熱戦の続くワールドカップですが、日本代表の試練はこれからです。これまでの紆余曲折が研鑽として積み重なり一気に花開くのか、それとも一時の奇跡に終わるのか、岡田ジャパンのセルフマネジメントに注目です。

(秘書課 梯 大介)

「ぼっこすこせえる」とは…神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。

暴論オピニオン 37

三浦市政経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。

『暴論』と『正論』

「暴論オピニオン」と題するこのコラムは、上に記載されているとおり日頃の無責任放談の中で飛び出した暴論を紹介するものであるが、この「暴論」は、アンチテーゼから産み出されるものである。

アンチテーゼとは、「特定の肯定的判断や命題に対して、特定の否定的判断や命題を立てること」という意味のドイツ語であるが、この情報誌のタイトルとなっている「ぼっこすこせえる」という言葉との関係でいうと、「特定の肯定的判断や命題」である「既存の考え方や行動様式」を「否定」し(=ぼっこし)、「新しい考え方や行動様式」を「構築」する(=こせえる)という図式となる。

皆さんの仕事や日常生活の中で、「本当にこれでいいの？」とか「それちょっと不自然なんじゃないの？」と感じるようなことが少なからずあるのではないかと思います。日々市役所の業務に携わる中でも、そのような思いを抱くようなことは存在する。

しかし、それが本当に「ぼっこし」て良いものなのかどうか、「ぼっこし」たのは良いが、果たしてどのようなものを「こせえる」べきなのか、これを判断するのは意外と難しい。そして、これが「既存の考え方や行動様式」を「否定」するところまでなかなか至らない原因となっていることが多い。

では、市役所の業務の中で「ぼっこし」て良いものは何か？どのようなものを「こせえる」べきか？先ほどの図式

で言えば、これを考える上で出発点となるのが、アンチテーゼである「暴論」ということになるが、「暴論」が「こせえる」ところまでたどり着くために兼ね備えていなければならないもの、それは、「社会の常識」なのではないかと考える。

そもそも「常識」とは「一般の社会人が共通に持つ、また持つべき普通の知識・意見や判断力」のことである。

市役所の業務において、「ぼっこし」て良いものや何を「こせえる」べきなのかは、当然、「一般社会人(=市民の皆さん)が普通に判断して」これはおかしいと思い、「一般社会人が普通に判断して」これが良いと思うものである。

改革に着手し、これを進めてゆくには、改革の帰着点としてあるべき姿、すなわち「こせえる」ものとしてふさわしいものをきちんと見極める必要があるが、それを見極めるには、「社会の常識」を備えた視点が必要だということである。

このように考えると「ぼっこし」、「こせえる」ものを判断することは、決して難しいものではないのであるが、これが、ひとたび「組織の常識」という罠に陥ると、途端に難しいものになってしまうのである。

市役所の改革は、まだまだ道半ばであり、これからも着実に成果をあげていくことが求められている。変えるべきことは変えていかなければならないこんな時だからこそ、「組織の常識」ではない「社会の常識」を見失わない姿勢が必要である。

「ぼっこすこせえる」ために必要な「社会の常識」を兼ね備えた「暴論」とは、結局のところ「正論」なのだから。

次号(第48号)は7月15日発行です。



3S市長の経営視点

三浦市長の吉田ひでおです。安全できれい、快適に過ごせる海水浴場の実現を目指して、この夏の海水浴シーズンから、神奈川県内の全ての海水浴場で「喫煙場所以外では喫煙してはいけない」という新たなルールがスタートします。

この新たなルールは、喫煙場所を指定して、受動喫煙や火傷事故を防止する目的のほかに、タバコのポイ捨て防止の効果も期待されています。

ルールを守るのは当然のことですが、きれいな海岸を目指して、ルールが適用される海水浴シーズンだけの取組で終わらせてしまっては、十分とは言えません。

三方を海に囲まれた三浦市としては、市民のみなさまにも、訪れる方にも、いつでもきれいな海岸を楽しんでいただけるようにしたいと思っています。

そのためには、海水浴シーズンだけではなく日常的に、タバコの吸殻をポイ捨てしない、ゴミがあったら拾うなど、みんなが少しずつ心遣いをするまでに至ることが大切なのだと感じています。

これからもたくさんの方々にお越しいただける海岸であり続けるため、「ほんの少しの心遣い」を大切にしていだければと思います。